



◆ゼラニウム◆

観賞用だけでなく香りの種類もいろいろ

ヨーロッパの窓辺の写真に必ずといっていいほど登場する花、それがゼラニウムです。豊富な色と、花持ちのよさ、日当たりさえよければ一年中花を咲かせることができるため、ベランダなどで手軽に栽培できます。

私たちがゼラニウムと呼んでいるのは園芸上の名称で、実際にはペラルゴニウム属に分類される植物です。ゼラニウム（ペラルゴニウム属）は交雑しやすく、原種も含めればおよそ六〇〇種類ぐらいあるといわれています。

香料として使われるゼラニウムは、主にローズゼラニウム（学名ペラルゴニウム・ガベロンス）で、葉から精油が抽出されます。その香りはほのかに甘いローズに似た香りで、それとともにミントの清涼感も含んだような香りとたとえられています。ゼラニウムの精油には気分の落込

みを和らげ、精神を明るく高揚させる働きがあるといわれています。ほとんどのゼラニウムは南アフリカが原産地ですが、十九世紀の初頭にフランスに伝えられ、精油生産の目的で栽培が始まりました。その後、インド南西のブルボン島（現在レユニオン島）に移植され、今ではゼラニウムの精油のもっとも重要な生産地となっています。

日本でも、一九六〇年から七〇年代にかけて温暖な気候の瀬戸内海地方で、一時期、精油の生産が試みられたのですが、海外からの輸入が盛んになり産業としての生産はされなくなりました。

しかし、昨今のハーブのブームとともに、香りを楽しむゼラニウムも注目され、園芸店では、さまざまな種類のゼラニウムが見受けられるようになりました。

●商品紹介

優しい色のパッケージにご注目！

『微香好文木 煙ひかえめ』『沈香好文木 煙ひかえめ』のパッケージが新しくなりました。

いずれのお線香も天然香料の良さはそのままに、その配合に心を配り、『より優しい香り』をテーマに創りあげた、新しい時代にふさわしいお線香です。

このたび、商品内容に合わせてパッケージの装いも新たにお届けできることになりました。

優しく、ほのかな香りを、是非お試しください。どうぞよろしくお願いいたします。



●沈香好文木 煙ひかえめ
2,100円（本体価格 2,000円）

●微香好文木 煙ひかえめ
1,890円（本体価格 1,800円）

●話題

香りの世界に新しい風

第一交通産業グループの季刊

しながらも『残香飛』など新しい時代の線香創りに熱意を燃やす、梅栄堂の中田信浩社長を二ページに渡り特集。いろいろなエピソードを交えて、社長の今までと、これからの意気込みが紹介されました。

中尾三工さんが香道体験歌手でタレントでもある中尾ミエさんが、縁あって「香道体験」のため来社（四月八日）。「香道は初めて……」と言いがらも『源氏香』では見事に正解して大喜び。「いい香りが体内に吸収されるようで、気持ち安らいだ」とのこと。記念に『記録紙』をお持ち帰りいただきました。

日経新聞（二月七日）の記事により、最近では、独自の香りを暮らしに取り入れる人が増えているとか。オリジナルの香水の調合サービスなどもその一つ。

また、大阪府と友好関係にある、フランスのヴァルドワーズ県からの代表団二十二人も来社。

また、お線香の世界でもわが社で扱っているコーヒーの香りの線香『残香飛』などに人氣が出るなど、いろんなシーンで、「香りの個性が求められている」といったことが取り上げられておりました。

日本文化の一つである香道を興味深く体験をされました。

